

① 家崎 萌 IEZAKI Moe <上越市> やまびこ

「やまびこ」

まだ無名の「何か」の内側に、間質のエネルギーが充満している。

あるとき、地面や草の上で「何か」に亀裂が入る。

亀裂は口となり、自らのエネルギーを歌う「やまびこ」になる。

造形のコンセプト：

私たちの内側と外側とは何か。

これが私の造形に向かう問いです。

○40×40×高さ40cm 重さ 個数3体 各20kg テラコッタ

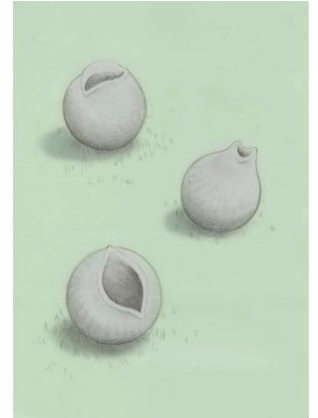
新潟県上越市生まれ / 兵庫教育大学大学院 芸術系教育連合講座 博士課程 在籍 (2019-)

2016年 「家崎萌作品展」上越市

2017年 「Loots of Arts 家崎萌作品展」上越市, 第89回 国展彫刻部門入選

2017-18年 チェコ共和国政府奨学生, 個展「Jsem Tady」, アーティストレジデンス (プラハ)

2019年 第91回 国展彫刻部門 / 第42, 43回三菱商事アートゲートプログラム入選, 他



② 田中幸男 TANAKA Yukio <見附市> Pararellogram

ひし形を組み合わせ、空間を構成。会期中に飲み込まれるのは落ち葉？

○80×160×高さ80cm 重さ15 スタイロフォーム、金属等

1968年 新潟県聖籠町生まれ

1992年～2018年新潟県内で個展多数

1997年 高田図書館ギャラリーにて「1992～現在展」

2007年 新潟県立近代美術館2F ギャラリーにて「1997～現在展」

2016年 見附市民ギャラリーにて「2007～現在展」



③ 霜鳥健二 SHIMOTORI Kenji <燕市> 移り行く面

面を連れ、面の角度を変え、面の移り行く姿を現した。

面と面の繋がりに弥彦の人びとと自然の繋がりを重ね、

作品のシルエットは私の中にある弥彦山をイメージした。

○650×150cm×240cm 100kg 鉄

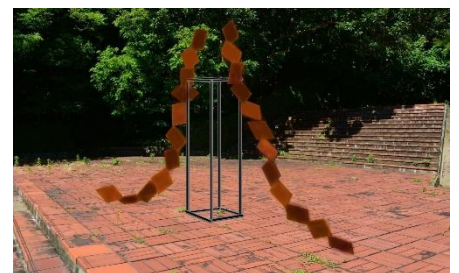
1998～2019 宮崎空港国際現代彫刻展 (宮崎空港)

2001～2017 弥彦野外アート展 (弥彦村)

2000～2018 「大地の芸術祭」越後妻有アートトリエンナーレ (松代・津南)

2008 霜鳥健二・内山玉延展 (弥彦の丘美術館)

2019 霜鳥健二彫刻展—鉄の彫刻展— (豊栄地区公民館)



④ 鈴木國男 SUZUKI Kunio <神奈川・相模原市> 竜宮

平成最後の春、2019年3月の末。衝撃的なニュースが世間を驚かせた。

はやぶさ2が、地球から約3億キロはなれた小惑星「リュウグウ」の

地表から太古の水の成分を発見したというのだ。これは、地球の水の

起源の解明に繋がるということだけではなく、宇宙には地球以外にも



水に満ちた惑星がある事を証明したことになる。近年地球上のわが人類は、水の大切さを忘れ有限な生きるために不可欠な資源を無限と勘違いしている。残念ながら私達は、まだ発見されていない水の惑星の良き住人からの啓示を待つ必要があるのかもしれない。

○約 150×150×150 cm 重さ 15kg 流木、石、鏡、麻ひも、アルミホイル等

新潟県燕市出身／神奈川県相模原市在住

○ポストカードブック『水の線 いろ かたち。』（揺籃社）発行。近年、“水”をテーマに作品を制作する。国内での個展の他、ニューヨークを中心に海外での発表が増えている。

○2007～9 相模原市美術展審査委員

09 『中之条ビエンナーレ』（中之条町・群馬県）

11 Contemporary Art Network（NYC）

13 弥彦の丘美術館（弥彦町・新潟県）

19 第25回記念 雪舟国際美術協会展 準大賞（国立新美術館）

⑤ 茅原登喜子 CHIHARA Tokiko <新潟市> ひとりのへやで

突然、目の前の物事から切り離される時がある。

さっきからつながっているはずの今が隔離されているような焦りと諦めと、奇妙な安堵感。

けれどその仕切られた空間は意識せずいつのまにか消えていく。

○200×400×高さ200cm インスタレーション（木製看板による）

1983 年新潟市生まれ。新潟市内在住。

ひもや看板をモチーフとした作品に加え、近年は地域リサーチを経た作品も制作。

田中屋画廊（青森）ai gallery（新潟）エムスタジオ（新潟）游文舎（柏崎）などで個展を開催。

2009 年より雪アート・新潟ユニットに参加。その他、グループ展にも多数出品。



⑥ 笠原賢悟 KASAHARA Kengo <新潟市> 影の中に。

パレイドリア的な作品を目指し。

アクリル屋さんが捨てようとしていた廃材を、積み木のように重ね合わせ

そこから見えてくる表情を、完成したのちに探して見ようと思う

目玉はそのヒントとなるためのモノです、自由に場所を変えてみてください。

○60×50×80cm 13kg 発泡ウレタン樹脂

2018 ニイガタオフィスアートストリート（新潟市）

2018 顔展（ギャラリーみつけ）

2017 弥彦野外アート展（弥彦村）

2017 ニイガタオフィスアートストリート（新潟市）

2017 フラワー展（ギャラリーみつけ）



⑦ 中村 信 NAKAURA Makoto <三条市> YAHIKO 暗号住宅

高層集合住宅が弥彦神社の裏手に出現。

景観の変化とその影響、高層集合住宅から見える景色、

そこに住む人々の趣味や職業などを空想してみる。

角材による単純形の組み合わせ。

この集合住宅に住んでいることを空想してみてください。

○120cm×100cm×高 180cm 20kg 木材

三条市在住。見附市、新潟市を中心に定期的に個展を開催。

2003 個展 新潟絵屋「PHOTO ACROBAT展」

2018 個展 三条東公民館「中村 信〈光の色，風の形〉展」

三条市若手芸術家支援事業

2018 個展 アートギャラリー万代島「中村 信 9th 展」

afterimage-art.weebly.com



⑧ 池原浩子 IKEHARA Hiroko <上越市> 境界・弥彦

藪の中に点在させた異質なポールが、わずかばかり繁みを際立たせ、新たな風景を立ち上げる。自然と人工の曖昧な境界に分け入る。

○200cm × 800cm × 高さ 100cm アクリル棒 樹脂系グリップ

2010-15 越後妻有雪アートプロジェクト（中里、松代）

2013/15/17/19 弥彦・野外アート展（弥彦）

2017 アートハウスおやべ現代造形展（小矢部）

2018 大地の芸術祭/雪アート・新潟ユニット

2018 個展<境界から境・界へ>（藍画廊、銀座）



⑨ 前山 忠 MAEYAMA Tadashi <上越市> 正方形の視界

部分をもって全体と為す。

四角をもって正方形と為す。

立体をもって平面（絵画）と為す。

物質をもって非物質（世界）と為す。

○450 cm×450 cm×12 cm 約 100kg 木（廃材）、アクリル絵の具

2000~18 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（十日町）

2011 石子順造的世界（府中市美術館）

2012 GUN—新潟に前衛があった頃（新潟県立近代美術館）

2016 帯広コンテンポラリーアート「ヒト科 ヒト属 ヒト」（帯広の森）

2019 Radicalism in the Wilderness (JAPAN SOCIETY, NY)



⑩ 外山文彦 TOYAMA Fumihiko <長岡市> Landscape 20

場とのコラボレーション。

本企画のファイナルに際し、この弥彦・野外アート展が生まれる

（20 年前の）起点にも微妙に関わる「20 年前の自作オブジェ」を、
敢えて素材にして展開する。

○300×200 cm 木、アクリル系塗料・他

長岡市出身・在住。アトリエZen主宰

2016 年 現代美術4人展「地下光学」（D u n g e o n／東京）、企画および出展

2016 年 個展（C o Z Aの間／横浜市）

2017 年 個展（ギャラリー空華／高崎市）

2018 年 個展（a r t T r u t h／横浜市） など



⑪ 齊藤 隆 SAITO Takashi <山形・東根市> 僕が弥彦に来た証^{しるし}拠

「弥彦・野外アート展」に参加できてうれしいです。関係の方々に感謝します。
作品の袋には、弥彦の水を詰めたペットボトルを入れてあります。これが、
僕が弥彦に来た証^{しるし}拠です。僕と僕の行為を見ていた方々にだけ分かる証^{しるし}拠です。
弥彦のきれいな水です。

隣の福島県には、今のところ人間が始末しきれない土などが入った黒い大きい
袋がたくさん整然と置かれています。悲しい風景です。

僕の作品は、どうでしょうか。判断は、あなたにおまかせします。

○16cm×26cm×高さ37cm 1.3kg 袋を110個 紙袋、ペットボトル、弥彦の水

彫刻集団 NAI 展（86～03）山形県上山市

最上環境芸術祭（98～02）山形県新庄市

Kitokito 環境芸術祭（13～17）山形県新庄市

NIGATA オフィスアートストリート（17）新潟市

第2回おやべ現代造形展（19）小矢部市



⑫ 西片 結花 NISHIKATA Yuka <三条市> 洗濯

自然の中で風を感じとれるよう、洗濯干し場を作品にしました。

白い洗濯物は今回、風景の中に用意した余白です。

この少しだけ自然から借りた一場面に、

こっそり空想の生物を住み着かせて遊んでみました。

○300×300×高さ300cm 重さ 5 布（洗濯物）、接着剤、安全ピン、洗濯バサミ、ハンガー等

長岡造形大学卒業

県内を中心にグループ展に参加（H26～H31）

エックス展 弥彦野外アート展 にいがたアートサーカス結展・大和デパート記憶と希望展 一陽会展 新

潟の美術家たち展 古町7番町工事壁面への壁画など

現在無所属



⑬ 関根哲男 SEKINE Tetsuo <柏崎市> 赤ふん

身近な不用な物体に赤ふんを巻きつけ、

その姿をおもしろおかしく楽しむ。

○50×50×高さ100cm 7体 木、鉄板、家具等

1942 中国（旧満州）生まれ

1977 個展 ときわ画廊（東京・日本橋） 以後各地で89回開催

1998 北東アジア現代美術（ネオ、ラグーン）

2000 大地の芸術祭（06.09.12.15）

2015 水と土の芸術祭



⑭ 高橋トオル TAKAHASHI Toru <新潟市> だるまのこ

風をうけてまわる玩具を見る私は、たのしく、

弥彦の風は10年前と変わらず吹いている。

ある時の感触は形を残さないが、その時は確かにあり、



10年後も風を楽しむ人がいる。 僕は子どもだったし、
その子は消えたが、今も子どもは風を見て笑っている。

○150×35×150cm 木、紙

アートディレクション&デザイン、映像制作を通して、ものづくりや社会課題に関わる支援業務を行う。
大地の芸術祭 2015 参加。 グッドデザイン賞 2015・2017 受賞。

⑮ 吉川 弘 YOSHIKAWA Hiroshi <新潟市> 弥彦に突然、異体の植物 植える

竹に着色してハランの葉をつけて

異体の植物を表現する

○100×200×120cm 竹、ハランの葉

1981 草月流入門 ～現在に至る 1992 いけばな造形大学卒業

1994 同造形研究科修了

1990～ サロンド メ フィナール入賞

個展6回（真木画廊、田村画廊）

新潟雪原イベント（笹神）／ 内灘砂丘イベント（埼玉）

妻有大地の芸術祭・雪アートプロジェ



⑯ 佐藤裕子 SATO Yuko <新潟市> エニシノカタチ

弥彦の森の精霊に最後の感謝の気持ちを染めてカタチにしました。

○φ10cm の筒型 10m 布

1992 新潟市内にアトリエを構える。

1990 MITO・10月展 水戸美術館（茨城）

1992 BLOW IN THE WIND（個展）新潟市美術館

1994 神通峡美術展 敷島紡績賞受賞（富山）

2000～県内外にて展覧会開催

全国阿波藍染作家協会 会員 台湾、東京等展覧会



⑰ 河治 明恵美 KAWAJI Akemi <新潟市> Rainbow-spider WEB

虹色のスパイダーは、仕掛けた罠につかまったモノの
ワクワクを食べて成長する。

綺麗な虹色の蜘蛛の巣を張り、ヒトの好奇心をおびき寄せる。

○180cm×180cm 高さ 重さ 3kg アクリル毛糸

新潟市在住 女子美術大学 絵画科 卒業

1996 富山神通峡トリエンナーレ

2000 新潟県展 新潟県芸展 新潟市展（新潟日報賞）

2015 月光展（酒屋やよい） 2017 弥彦野外アート展

2018 JUQJOSHIBI-921 展（港区南青山） エックス展（長岡 たびのそら屋）



⑱ 藤井芳則 FUJII Yoshinori <新潟市> Freedom for all

A「蜘蛛の巣に掛った虫のようざます。」

A「すべての自由を奪われてしまったざます。」

A「こうなる前に気付けばよかったざます。」

B「こうなったら終わりなのだ。」

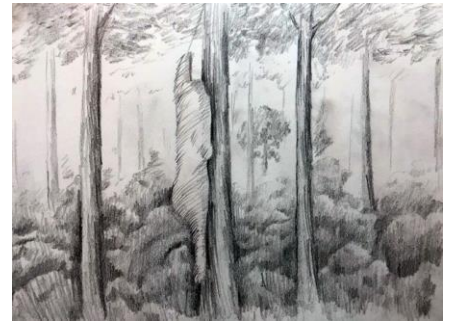
B「弥彦野外アートもこれで終わりなのだ。」

○60×60×170 cm 5kg エアキャップ、ビニールひも

弥彦野外アート展 2009/11/13/15/17

大地の芸術祭（新潟ユニット） 2015/2018

桃園北景芸術節（台湾） 2016/2017/2018/2019



①9 児玉 瑞子 KODAMA Mizuko <新潟市> 印象～弥彦の風に誘われて～

弥彦野外アート展に参加したことで、

弥彦は私にとって身近で大好きな場所になりました。

弥彦の季節の輝きをイメージして制作しました。

○300×300×高さ180cm 重さ50

木材・スタイロフォーム・塗料 他

- ・弥彦野外アート展（2001年～ 隔年 ）
- ・Blue Sky Project （2006～2010年）
- ・NIIGATA オフィス・アート・ストリート（2014、2016、2017年）
- ・ONE Mart EXPRESS （2011、2012年）・・・他グループ展参加
- ・個展 （2008、2012年）



②0 佐藤郷子 SATO Kyoko <新潟市> 上昇する風に乗って

311を機に作ったカゲロウの翅のパーツを弥彦の谷に設置して、
上昇する気流を表現。

ファイナルに寄せて、発想当初イメージしていたインスタレーションに
取り組みたい。

○1 パーツ 50 ×2 cm×高さ60～180cm 重さ200g 20本程度 ミクストメディア

新潟市在住 個展6回

2005～弥彦野外アート展参加

2009～妻有雪アートプロジェクト新潟ユニット参加

2015～大地の芸術祭 ギャラリー湯山参加

